

——あの、とりあえず話を……。

あ、ユキたんって言うのは冬村さんって言って私の運命の人なんですが、今後仲を深め合ってから頃合を見てこう呼ぼうかなって

——うつさいわボケいいから話聞けや脊髄ぶつこ抜いて干物にするぞ。

申し訳御座いません

少女のようすに透き通つた愛らしい声が一瞬にして極妻の檄に。

世界はなんて世知辛いのだろう。結局、昨日の友は今日の敵でし

かないのでだろうか。

そう思つてしかし、そもそも声の主とは友ですらなかつた事に気付いて悲しくなつた。

何故、初対面の相手から「脊髄を干物に」などと言われる破目に。私はただユキたんの愛を語つただけなのに。

——なんか色々と面倒になつたので結論を言いますが、貴女は死んでません。残念な事に。

今、残念な事について言いましたか？

——いわゆる臨死体験と思つて下さればいいです。非常に残念ですがそろそろ意識が戻る頃でしよう。

あれ、私スルーされてますか？ しかも一度も残念とか言われてますよ。

——スケイル、茶箪笥の羊羹を出してくれます？ あるいい方のお茶も。

完全にスルー体制入りやがりましたね。泣きますよ？ 警察呼ばれる勢いで泣きますけどいいのかコノヤロウ。

泣けど騒げど既に相手にされないだろ？事を知りつつ言う私の羊羹に舌鼓を打つかの人がシルエットで浮かぶ。

その向こう側に聞こえる音。あれは……。

……世界不思〇発見？ 好きなんですか、少女のようすに可愛らしい極妻の方。

——スペニッシュオムレツ！

私が最後に聞いたのは、極妻の方の野〇村真ばりの珍解答だった

……。

——5：57 PM 冬村サユキ

「いきなり、失敗しちやつたのかな」  
ゆらゆらと、漠然とした不安が私の肩に手を置いた。